

1.研修プログラムの名称

泌尿器科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

泌尿器科学は、腫瘍学（前立腺癌、膀胱癌、腎癌、副腎癌、精巣癌など）、排尿障害（前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿失禁など）、尿路結石症、腎不全医療など多岐にわたる疾患を取り扱う。高齢者社会を向かえ、社会のニーズは極めて高く、今後のさらなる発展が予想され、また期待されている。当泌尿器科学講座では、排尿障害、尿路結石、腎不全などの日常診療に不可欠な疾患に対する診断、標準治療を身につけてもらえるように努力している。

3.一般目標

- 1) どの分野でもよく遭遇する排尿障害に対する考え方、緊急処置を含む治療方法を身につける。
- 2) 頻度の高い前立腺癌、膀胱癌を中心とした腫瘍で鑑別診断のための検査計画を立案し、治療戦略を立てる基礎知識を得る。
- 3) 腎前性、腎性、腎後性腎不全の病態を理解し、迅速に対処できる能力身につける。

4.具体的目標

- 1) 経験すべき診察法・検査・手技
 1. 腹部の診察（直腸診を含む）ができ、記載できる
 2. 泌尿・生殖器の診察（産婦人科的診察を含む）ができ、記載できる
 3. 一般尿検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 4. 血算・白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 5. 動脈血ガス分析の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 6. 血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
 7. 超音波検査（A）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 8. X線CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 9. 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる
 10. 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる
 11. 穿刺法（腰椎）を実施できる
 12. 導尿法を実施できる
 13. ドレーンチューブの管理ができる
- 2) 経験すべき症状・病態・疾患
 14. 発熱を診察し治療に参加できる
 15. 腹痛を診察し治療に参加できる
 16. 血尿を診察し治療に参加できる
 17. 排尿障害（尿失禁、排尿困難）を診察し治療に参加できる
 18. 尿量異常を診察し治療に参加できる
 19. 急性腎不全を診察し治療に参加できる
 20. 腎不全を診察し治療に参加できる
 21. 泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症）（B）を診察し治療に参加できる
- 3) 全科共通項目
 22. 診療録（退院サマリーを含む）をPOSに従って記載し管理できる
 23. 処方箋、指示箋を作成し管理できる
 24. 診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる
 25. 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

5.指導体制・方略

指導医、チーフ、臨床研修医からなるグループを形成し、各症例の診断から治療までのトータルな診療にあたる。臨床研修医は各疾患の臨床ポイントを学び、さらに術前、術中、術後管理についての指導を受ける。また排尿自立指導のための排尿ケアチームのラウンドに参加できます。

6.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
8:00～	回診	回診	7:30～ 教授回診	回診	回診	回診
9:00～	病棟業務 各種検査	手術	手術	手術	病棟業務 各種検査	病棟業務 ESWL
13:00～	ESWL 前立腺生検	手術	手術	手術 前立腺生検	ESWL 小線源治療	
17:00～	医局会	回診	回診・スタッ フによるレク チャー	回診	回診・スタッ フによるレク チャー	

7.研修活動

1. 看護師薬剤師などの他職種と診療領域・職種横断的なチーム（感染制御、緩和ケア、栄養サポート、認知症ケア、退院支援等）との議論を行い包括的な管理を学ぶ。
2. 尿路悪性腫瘍の遺伝子解析に基づくゲノム医療に関してカンファレンスを行い治療決定を行う。

8.評価

1) 自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する
EPOC を用いて自己評価を行う
研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

EPOC を用いて評価する
研修事後レポートより評価する
他者評価表を用いて評価する
研修終了時に試験を行い、振り返りをおこなう

3) コメディカルによる評価

EPOC 又は評価表を用いて評価する
他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する
評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項